

会議報告書

件 名	第 7 回常滑市中学校制服のあり方検討委員会
実施日	令和 4 年 9 月 30 日（金）15 時から 17 時 00 分
場 所	市役所 1 階 会議室 F
出席者	委員：青海中学校長、鬼崎中学校長、常滑中学校長、南陵中学校長 教頭会長、市 PTA 連絡協議会母親代表 市子どもを守る会連絡協議会長、教育長、教育委員 2 名 教育委員会：教育部長、学校教育課長、学校教育課付課長、 （事務局） 学校教育課主査、学校教育課主事 マスターメーカー：名古屋菅公学生服(株) 1 名

1 委員長あいさつ

皆様、ご多用の中、お集まりいただき誠にありがとうございます。さて、前回のこの検討委員会におきましては、「新しい制服に関する意向アンケート」についてのご意見をいただきました。そのご意見をもとにして、9 月の上旬に各小中学校におきまして、タブレット端末を用いてアンケートを実施したところでございます。

今回の検討委員会におきましては、そのアンケートの結果をもとに協議を進めさせていただき、新しい制服の仕様やデザインを決定する方法につきまして、検討してまいりたいと思っております。

本日も皆さまのご意見をお聞かせいただきながら、新しい制服がより良いものになりますよう、お力添えをよろしくお願いいたします。

2 議題

（１）新しい制服に関する意向アンケートの結果について

事務局：資料に基づき説明

委員長：「常滑らしさ・常滑のよさ」の項目は順当な結果がでたと思っている。各中学校のイメージカラーについては、普段着ているジャージの色に影響を受けていると想像がつく。

委員 C：その通りだと思う。

委員長：コロナの関係で普段からジャージを着ているので、まさにそうだと思う。夏服については、ワイシャツを選んだ人の方が多く意外だった。

委員 F：子どもからするとポロシャツは年齢が上の人が着るイメージだと思う。

委員 G：ポロシャツを普段あまり着用しない子は、どのようなものなのか分からなかったのではないかな。

委員 A：子どもの中で、制服というものはワイシャツというイメージが付いていて、ポロシャツの良さがあまり理解できなかったのではないかな。

委員 B：登下校時など高校生とすれ違うこともあるので、ポロシャツは目にするにはあると思う。この結果は意外であった。

委員 I：実際、ポロシャツとワイシャツとでは、ストレッチなど機能的には違いがあるのか。

菅公：今ポロシャツはすごく進化しており、体操服の半袖シャツとほぼ同じような素材。紫外線は全く通さないで、透けることもほとんどない。赤外線も通さないで、涼しくなる。ワイシャツよりポロシャツの方が機能が多いのは間違いない。

委員 H：ネクタイ・リボンも夏でも付けたいという意見もあって、ワイシャツの方が多くなったのではないかな。

菅公：他市町では、白色ならポロシャツでもワイシャツでも自由という例もある。愛知県内の公立学校 410 校のうち、90 校が令和 4 年春までにブレザー化をしている。その中で夏服については、ポロシャツのみは 59%、どちらでも自由は 24%、シャツのみは 4% になる。

(2) アイテム選定・生徒参画案の検討について

事務局：資料に基づき説明

菅公：ネクタイ・リボンを採用している他市町の例だと、総選挙の時はネクタイ・リボンは無しで各小中学校で展示し投票を行い、その後それぞれの中学校ごとにネクタイ・リボンのデザインを決定しているところもある。ありなしを含めて総選挙で決める場合は、全て同じデザインのネクタイ・リボンをつけて行った方がいい。

仕様書の作成のことを考えると、まず上着を決めて、インナーを決めて、ネクタイ・リボンを決めるという流れが一番スムーズである。

委員長：3 月に上着が決まって、ネクタイ・リボンが 4 月以降に決定というのは可能なかな。

事務局：現在の小学 4 年から中学 3 年までの意見を反映させたいという考えをもとにすると、今年度中にネクタイ・リボンを含めた制服の一式を決定したい。

委員長：事務局案の今年度中に全て決定するという方針でよろしいかな。

委員全員：いいと思う。

委員 H：冬用のインナーはワイシャツで、夏服はポロシャツかワイシャツかという認識であった。しかし、冬用のインナーでもポロシャツが可能であるということなので、冬用のインナーをどちらにするかを決めないことには、ネクタイ・リボンのありなしも決められない。

委員 F：現在、体操服やジャージで学校生活している。新しい制服がポロシャツになると、体操服での登下校や学校生活ができなくなるのかも同時に考えるべきである。

委員 G：今の体操服での生活は、子どもにとってすごく楽だと思う。夏用の制服はほとんど着ておらず、もったいない。夏服はポロシャツなので制服しか認めませんと決めるのであれば、それでいいが、今まで通りで体操服でもいいのであれば、夏用の制服の必要性がなくなってしまう。

委員 B：エアコンが各教室導入されたので、暑さ対策のための体操服での生活ではないという議論は校内でもある。もしかすると来年からは制服登校に戻るかもしれない。

委員 A：コロナ禍ということで、密になって着替えるのを防ぐためにも体操服での生活が認められている。体操服での生活は楽ではあるが、ゆったりした雰囲気もする。どこに行っても同じ服装で、このままでいいのかと感ずることもある。しかし、子どもたちの気持ちを考えたら戻すのは難しい。

委員 C：本校では方向性については未定であるが、しっかり議論を重ねて決めていきたい。自転車通学が多いので制服登校に戻すというのは難しい部分もある。

委員 D：本校では期間を決めて体操服での生活を認めている。自転車通学の際や、夏の登下校時の暑さ対策など機能性を重視したうえで、制服を着るということを大切に考えたい。

委員長：令和 6 年度の新制服導入時には、コロナは終わっておりスタートしたいという期待感を持っている。なので、きちんと制服を着て登校してほしい。ただ、安全第一なので、夏については体操服での登校を認めるといった柔軟性を持たせたい。夏といえども制服自体はしっかり決める方向性でいきたい。

今後の予定としては、ネクタイ・リボンを付ける付けないというのは、総選挙の際に一緒に選択してもらおう。時期は未定だが、ポロシャツについては利点をしっかり理解したうえでもう一度選択する機会を与えてはどうか。

委員 A：実物を見て触る機会を与えて、考える時間を設けることは重要だと思う。

管公：総選挙の前後で各校に実物を展示することは可能である。

委員長：総選挙前の段階で、実物を見て触って、じっくり考える機会を与えていただきたい。

事務局：時期や方法については、マスターメーカーと相談しながら案を考え、お示しする。

委員 H：次回、夏服について選択する際に、令和 6 年度については、体操服での生活はやめて、制服着用が原則であるという条件を入れないと、意見がガラッと変わってくる。

委員長：令和6年度以降は、コロナがないということの期待をもって、夏も制服着用が基本線である。しかし、状況によっては、体操服での登校等を各中学校ごとに判断する。それをこの検討委員会では統一見解とし、その前提のもと夏の期間ポロシャツがいか、ワイシャツがいかのアンケートを事務局から提案のある時期に実施する。その結果を踏まえて決定したい。といったことが全体の意見でしょうか。

委員F：制服を買う側からしても、着るかどうか分からないというよりは、夏用の制服があるので購入すると決めた方がありがたい。

事務局：ここまでをまとめますと、ポロシャツかワイシャツかを正式に決定するアンケートを実施する。その前に実物を各校に展示し、見て触って、メリット等の補足情報も付けておく。なおかつ、令和6年度からは原則夏の期間は夏用の制服を着用する予定ということも書き添えて、判断をしてもらうということによろしいか。

委員長：その通りである。

事務局：冬服のインナーはワイシャツで決定ということによろしいか。

委員長：一応その形で仮決めとさせていただいて、事務局で近隣の情報を集めていただき、次回の冒頭で決定することにしたい。

（３）デザイン画について

事務局：資料に基づき説明

委員全員：事務局案である、次回の検討委員会で実物を見ながら5パターンから3パターンへ選定するということに賛成である。

管公：上着については、紺色でデザイン画を作成しているが、グレーも可能なので、次回の検討委員会に持参する。

事務局：ワッペン・ボタンについては、次回の検討委員会で協議していく。

委員長：次回までに委員のみなさんに参考資料を見ていただき、ワッペンを付けるか付けないか、付けるならデザインは各中学校ごとに決めるのか、市で統一したものにするのかを考えていただきたい。また、ボタンについても、デザインを各中学校ごとに決めるのか、市で統一したものにするのかを考えていただきたい。

3 その他

《次回 第8回常滑市中学校制服あり方検討委員会》

令和4年11月1日（火）午後3時00分 市役所1階会議室G